

岡山

7作品
上映

+ トーク
ライブ



岡山市芸術祭
OKAYAMA CITY ART FESTIVAL

大鹿村騒動記 父と暮せば 新世界 寝盗られ宗介 どついたるねん 竜馬暗殺 反逆のメロディー
ゲスト 荒井晴彦 (脚本家)、石橋蓮司 (俳優)、大楠道代 (俳優)、佐野史郎 (俳優)、寺脇研 (映画評論家)、林海象 (映画監督)、原田麻由 (俳優)

原田芳雄

yoshioharada
film fes.
in okayama

映画祭

彼の愛した岡場で岡山の人たちとともに——。日本映画を代表する俳優、原田芳雄の死を悼む映画祭。役者として人間としての魅力を出演作品から探り、また親交の深かったゲストと原田芳雄という人物を通し、俳優・演出の視点からこれからの日本映画について考えたい。

2012.7.28 sat・29 sun

28日・10:30 開場 11:00～上映 29日・9:30 開場 10:00～上映

60分トークライブ付チケット 前売／2000円 当日／2200円

30分トークライブ付または上映のみチケット 前売／1300円 当日／1500円

岡山県天神山文化プラザホール

岡山市北区天神町

お問い合わせ・岡山原田芳雄映画祭事務局 映画の冒険 内 Tel.086-252-7606

共催・岡山市芸術祭実行委員会、岡山市 助成・公益財団法人 福武教育文化振興財団 協力・岡山メルパ、みどり映画社

前売券取り扱い・岡山シンフォニーホールチケットセンター、ぎんざや、山陽新聞社サービスセンター、シネマコレクターズショップ映画の冒険、インディスク

もういちど、原田芳雄。

© ATG

岡山原田芳雄映画祭 yoshio harada film fes. in okayama

原田芳雄 1940年東京都生まれ。1968年「復讐の歌が聞こえる」で映画デビュー。「田園に死す」(1974年)、「祭りの準備」(1975年)でブルーリボン賞助演男優賞、「どついたるねん」で報知映画賞最優秀助演男優賞、「われに撃つ用意あり」(1990年)「殺人街」(1990年)でブルーリボン賞主演男優賞、1997年毎日映画コンクール主演男優賞など多数の映画賞を受賞。その圧倒的な存在感とシリアスなドラマからコメディまでこなせる演技力は、日本を代表する映画監督はもとより、若手の監督からも絶大な信頼を受け、130本を超える映画に出演。2003年に紫綬褒章、2011年には旭日小綬章を受賞。2011年、数々の映画賞を受賞した「大鹿村騒動記」が遺作となった。



©日活

* プログラム

反逆のメロディー 1970年 日活 84分

監督：沢田幸弘 脚本：佐治乾、蘇武路夫 撮影：山崎義弘 音楽：玉木宏樹 出演：藤竜也、梶芽衣子、地井武男

梶の推薦で日活デビューした原田の初期の代表作。沢田監督に「やくざ映画ではなく、これは青春映画だ。自由にやっていい」と口説かれ、ジーンズ上下のままを条件に出演を快諾。1970年代の熱気や自由な現場の空気が伝わるアウトロー映画の快作。

寝盗られ宗介 1992年 松竹 106分

監督：若松孝二 原作・脚本：つかこうへい 撮影：鈴木達夫 音楽：宇崎竜童 出演：藤谷美和子、久我陽子、寛利夫、佐野史郎、岡本信人、吉行和子

ドサ回りの座長と、男と逃げては戻ってくる内縁の妻と座員たちの哀歌。越路吹雪の弟と称した女装の原田が歌う「愛の讃歌」は絶品・圧巻。宇崎竜童の哀愁を帯びたメロディがとてつもない。佐野は原田の腹違いの弟役。



©松竹

父と暮せば 2004年 パル企画 99分

監督・脚本：黒木和雄 原作：井上ひさし 脚本：池田真也 撮影：鈴木達夫 音楽：松村禎三 出演：宮沢りえ、浅野忠信

愛する人々を原爆で失い、自分だけが生き残った罪悪感に苛まれる娘・宮沢りえを見守る心優しい父親の幽霊を原田が演じる。黒木和雄監督の戦争レクイエム三部作完結作。原田の一人芝居のシーンには圧倒される。



©パル企画

竜馬暗殺 1974年 ATG 118分

監督：黒木和雄 脚本：清水邦男 撮影：田村正毅 音楽：松村禎三 出演：石橋蓮司、松田優作、桃井かおり、中川梨絵、田村亮

竜馬の死に至るまでの三日間を描く。それまでの竜馬のイメージをひっくり返すようなアンチヒーローを演じた原田の代表作であり、黒木和雄監督、盟友石橋蓮司との出会いとなった作品である。下津井藩出身と言う松田優作の設定は、倉敷在住の脚本家・田辺泰志の手によるもの。



©ATG

どついたるねん 1989年 荒戸源次郎映画工房 110分

監督・脚本：阪本順治 撮影：笠松則通 音楽：原一博 出演：赤井英和、相沢晴子、喜赤児、大和武士、美川憲一

赤井英和の自伝をもとにした傑作ボクシング映画。負傷したボクサーのカムバックを助けるコーチに原田。ファイティングシーンは日本映画史上に残る名場面。原田と阪本監督との最初のタッグである。



©荒戸源次郎映画工房

新世界 2001年 18分 監督：阪本順治 岡山初公開

阪本監督「ピリケン」にチョイ役で出た「焼肉くいてえ」の流しのオヤジ役・原田が、9.11直後の新世界でインタビューを始める。18分の短編。

大鹿村騒動記 2011年「大鹿村騒動記」製作委員会 93分

監督：阪本順治 脚本：荒井晴彦・阪本順治 撮影：笠松則通 音楽：安川午朗 出演：大楠道代、岸辺一徳、佐藤浩市、松たか子、富浦智嗣、瑛太、原田麻由、小倉一郎、でんでん、加藤虎ノ介、小野武彦、石橋蓮司、三国連太郎

原田自身が「自らの原点を確認するためにどうしてもやっておきたい」と切望した企画。日本で最も美しい村といわれる長野県大鹿村で300年以上も受け継がれてきた実在の村歌舞伎を背景に、滑稽でホロ苦く人間味あふれる群像劇が描かれる。愛すべきオトナの喜劇である。「KT」(2002年)の確執を越えて、荒井・阪本のコンビによる原田とのガチンコ勝負。



©「大鹿村騒動記」製作委員会

トークゲストプロフィール

★荒井晴彦 (脚本家・映画監督)
「新宿乱れ街」まで待って(1977年)で脚本家デビュー。「熱い髪の女」(1979年)、「Wの悲劇」(1984年)、「KT」(2002年)他多数。「身も心も」(1997年)は監督作品。

★石橋蓮司 (俳優)
1941年生まれ。原田との共演作は「竜馬暗殺」(1974年)、「出陣」(1989年)、「殺人街」(1990年)、「われに撃つ用意あり」(1990年)、「スリ」(2000年)、「大鹿村騒動記」。

★大楠道代 (俳優)
1946年生まれ。原田との共演作は「無宿人獅子神の丈吉 黄檗に閃光が飛んだ」(1973年)、「ツィゴイネルワイゼン」(1980年)、「陽炎座」(1981年)、「夢二」(1991年)、「大鹿村騒動記」。

★佐野史郎 (俳優・映画監督)
林海象監督「夢みるように眠りたい」(1986年)でデビュー。1999年に「カラオケ」を監督。原田との共演作は「TOMORROW明日」(1988年)、「キスより簡単」(1989年)、「寝盗られ宗介」。

★寺脇研 (映画評論家・京都造形大学教授)
ゆとり教育の推進役であり文部官僚として名高いが、映画評論家としても日本映画にとって欠かせない存在。「戦争と一人の女」(製作中)のプロデュースも手がける。

★林海象 (映画監督)
「夢みるように眠りたい」(1986年)でデビュー。代表作に「私立探偵・演マイク」シリーズ。原田作品は「二十世紀少年読本」(1989年)、「海まおづき」(1996年)、「ちんねえ」(1997年)。

★原田麻由 (俳優)
「大鹿村騒動記」では父・原田芳雄と共演。「TM FLASH」(豊田利晃監督 9/1公開)、「北のカナリアたち」(阪本順治監督 11/3公開)、「千年の愉楽」(若松孝二監督)が公開待機。

◎上映スケジュール

7/28

反逆のメロディー☆ 11:00	◆トークなし
父と暮せば☆ 13:00	トーク 14:40 原田麻由
新世界☆/どついたるねん☆ 16:00	トーク 18:20 荒井晴彦・林海象・寺脇研

7/29

寝盗られ宗介 10:00	トーク 11:50 佐野史郎・林海象
竜馬暗殺 13:00	トーク 15:00 石橋蓮司・佐野史郎・林海象・寺脇研
大鹿村騒動記* 16:00	トーク 17:40 石橋蓮司・大楠道代・荒井晴彦・原田麻由

☆は今回デジタル上映になります。※は60分のトークライブ、その他は30分のトークライブです。また、ゲストの最新ニュースはH.P.でご確認ください。

岡山県天神山文化プラザ ホール

岡山市北区天神町

お問い合わせ 岡山原田芳雄映画祭 事務局

岡山市北区奉還町3-1-30-103 映画の冒険 内

Tel/Fax 086-252-7606

yoshitomi@mx3.tiki.ne.jp



イタリア賞
最高賞

モンテカルロTV祭
最高賞

文化庁芸術祭
大賞

キノタヨ映画祭
特別招待

ヒューゴ・テレビ賞
奨励賞

放送文化基金賞

芸術選奨
新人賞

『大鹿村騒動記』

原田 芳雄

「人生つてのは自分が魚拓にされるまでの物語だ」

火の魚

監督：黒崎 博 「セカンドバージン」「冬の日」

脚本：渡辺あや NHK連続テレビ小説「カーネーション」

原作：室生犀星 音楽：和田貴史

出演：原田芳雄 尾野真千子 高田聖子 岩松了

劇場版制作協力：NHKエンタープライズ クロスメディア

配給：クロスメディア ©2012 NHK

NHK連続テレビ小説
『カーネーション』

尾野 真千子



岡山市芸術祭
OKAYAMA CITY ARTS FESTIVAL

国内外で高い評価を得た広島発ドラマ!

2009年にNHK 広島放送局により制作され、世界的に権威のある国際番組コンクール「イタリア賞」「モンテカルロ・テレビ祭」をダブル受賞。

“広島発の作品”として国内外で高く評価されました。

昨年亡くなられた原田芳雄さんの主演作であり、NHK 連続テレビ小説「カーネーション」のヒロインとして注目を集める尾野真千子さんとの競演はまるで「静かな格闘技」。本作の見所のひとつです。



広島の小さな島から届けられる物語

テーマは「命の輝き」。

島に住む老作家・村田省三（原田芳雄）のもとに、原稿を受け取るために東京の出版社から女性編集者・折見とち子（尾野真千子）が通ってくる。小説家と編集者は、歳は違うがプロ同士。互いに一歩も譲らず、丁々発止のバトルが繰り広げられる。あるとき小説の装丁を、燃えるような金魚の「魚拓」にしたいと思いついた村田は、折見に魚拓を作ることを命じる。魚拓をとるには、金魚を殺さなければならない。小さな命を巡って、二人の間にさざなみが立つ。やがて村田は、折見の“秘密”を知ることになる…。

ぶつかりあい、いたわりあい、笑いあふ。

世間から取り残された孤独な老人と、時間を慈しむように生きる女性が過ごすひと夏。

命が輝くユーモラスでほろ苦い物語を、瀬戸内・大崎下島を舞台に描く。



原田 芳雄

1940年、東京都出身。1968年に『復讐の歌が聞こえる』で映画デビュー。1990年の『われに撃つ用意あり』『浪人街』でブルーリボン賞主演男優賞、1997年の『鬼火』で毎日映画コンクール男優主演賞など、多数の映画賞を受賞。その他、近年の代表作に2004年『父と暮らせば』、2008年『歩いて 歩いて』、2011年『大鹿村騒動記』など多数。惜しまれつつも2011年7月、逝去。

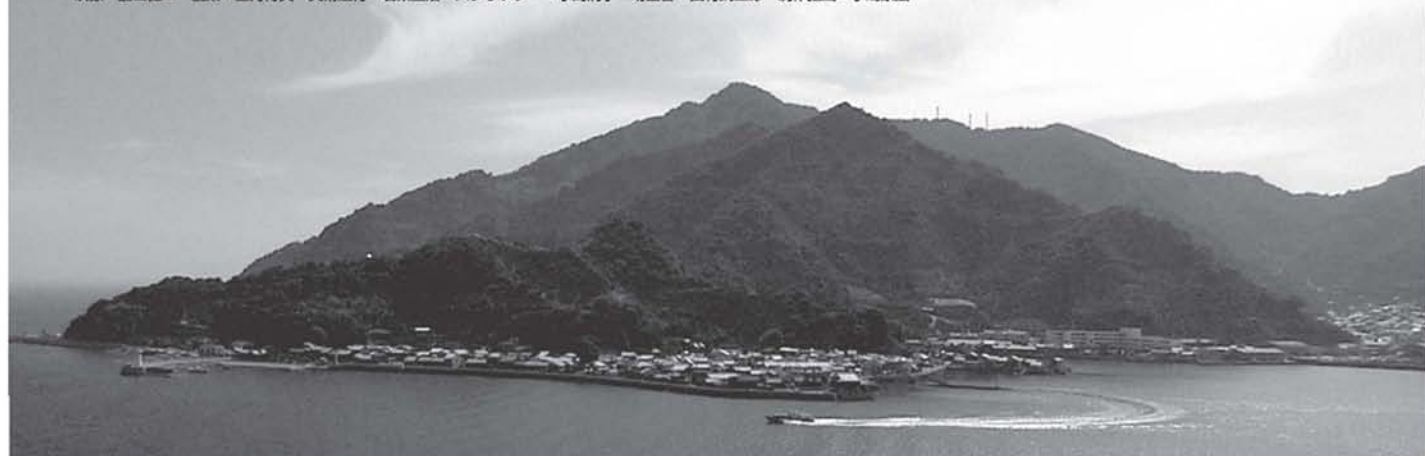


尾野 真千子

1981年、奈良県出身。1997年のカンヌ国際映画祭カメラ・ドール受賞作品『萌の朱雀』でデビュー。映画出演は『クライマーズ・ハイ』『残の森』『真幸くあらば』など多数。2011年のNHK連続テレビ小説『カーネーション』では主役を演じた。本作『火の魚』の演技は高く評価され、『放送文化基金賞・演技賞』『東京ドラマアワード・助演女優賞』を受賞。役柄の幅広さと確かな演技力で、今もっとも注目される女優である。

原田芳雄 尾野真千子 高田聖子 岩松了 監督：黒崎博 脚本：渡辺あや 音楽：和田貴史 原作：室生犀星
プロデューサー：行成 博巳 ラインプロデューサー：松井修平
技術：大塚豊 美術：土手内賢一 撮影：持田立 前田貴作 音響デザイン：木村充宏 加藤直正 音声：北島正司
映像：龍口健二 編集：望月博文 美術進行：若桑隆治 スクリプター：水島清子 助監督：西村武五郎 制作担当：手嶋康宏

黒崎博（岡山県出身）監督作品



岡山原田芳雄映画祭

岡山県天神山文化プラザホール
岡山市北区天神町

2012.7月28日(土) 9:15より
当日のみ 1,000円

お問い合わせ・岡山原田芳雄映画祭事務局 映画の冒険内 Tel.086-252-7606
共催：岡山市芸術祭実行委員会、岡山市 助成：公益財団法人 福祉教育文化振興財団 協力：岡山メルパ、みどり映画社